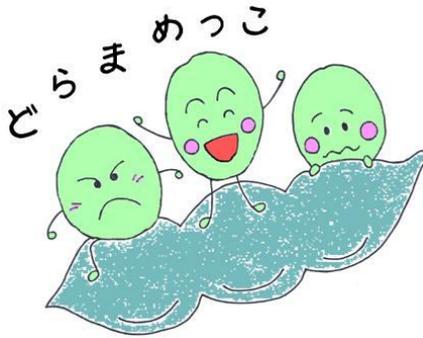


子育て相談員だより  
2020.11月  
No.20



〒270-1516  
千葉県印旛郡栄町安食938-1  
ふれあいプラザさかえ 1階  
子育て包括支援センター 子育て相談員  
URL <http://www.town.sakae.chiba.jp/>  
Eメール [kosodate@town.sakae.chiba.jp](mailto:kosodate@town.sakae.chiba.jp)

## ～だれでも、作詞・作曲家！？～

赤ちゃんはお腹の中で周囲の話をきいていると言われていています。ですから、生まれた時から母語がわかるし、話しかけてくれる人の声を知っています。そして生後11週目くらいから、人間の声やそれ以外の音を聞き分けられるようになります。

音楽を子どもに聴かせることは、言語能力・運動能力・人間性を高めるメリットがあります。そして音楽を聴くときに手をたたく、ジャンプする、ダンスするなどのアクティビティを取り入れたり、同じ曲を繰り返し聴くことも、音楽を楽しむポイントになります。



あそびの中や散歩の途中で歌をくちずさむこともいいですね。

先日、お馬のあそびをしているお子さんの横で「おうまはみんな」を歌ってみたら、「こういう時になかなかパッと歌が出てこなくて…」と言っていたママがいます。季節やシチュエーションに合わせた歌を知らなくても、お子さんの様子を見ながら、歌詞と節を作ってしまうのはいいのです。そう、大人も子どもも作詞作曲家になってしまうこと。お馬の歌を思い出せなくても、お馬がパカパカ走る感じを歌にすればいいのです。

「はじめてのおつかい」という番組で、お子さんが自分で作った歌を口ずさみながら歩く、ほほえましい映像を見たことはありませんか？嬉しいとき、楽しいとき、ちょっと不安な時、そんな思いに適当な音をつけてみる、子どもの発想力・空想力はすごいですね。

子どもと一緒に見て感じて、身近な大人がそれを言語化することで、心にたまっていくような言葉（内言語※）が増え、それが思考の元になります。



右足 変身！  
とつしたはこうん



ひとつのりんごから



冷たいね

いい匂いだね

おじいちゃんが  
送ってくれたね

※内言語

声や文字となって外に現れない言語。  
頭の中で思考するときの道具のような、  
自分自身の心の中で用いる言葉。

「りんご」という名詞だけでなく、そのものから  
感じることを言葉として伝える。